

## 紫波町上平沢小学校実践区

- 「テーマ」
- 震災を超えて・新たな教育課題への取組  
組織の見直し・地域コミュニティ再生の取組
  - PDCAサイクルによる推進の取組  
年間を通じた全県共通課題・モデルプログラムの取組
  - 地域ぐるみによる「いわての復興教育」の取組  
防災教育・被災地支援交流・地域を担う人材育成の取組

活動のようす



## 『 明日の岩手を担う子を育てよう 』

～「わが家のルール」・「親子読書」の取り組みを通して～

### 1 地域の教育課題

- (1) 家庭学習の習慣化を図る。
- (2) 親子で読書習慣を身につける。
- (3) 地区行事に参加し、あいさつを交わしあう。

<課題の裏付けデータ>

- (1) 帰宅後すぐ学習に取り組む児童が全校の38.3%であった。
- (2) 昨年1年生の1か月貸し出し冊数平均が8.5冊であった。
- (3) あいさつの声が小さいと言われていた。

### 2 役割分担と年間の計画

○課題解決のためのそれぞれの役割

<子ども>

「わが家のルール」を親子で設定し、責任をもって取り組み、達成感を得る。

<保護者>

子どもをその気にさせる言葉かけを行い、プラスの暗示をかける。

<先生>

取り組み方の具体例等を提示し、工夫・やり方の参考を示す。

<地域>

教振総会・地区懇談会等に出席し、子ども達への声かけを確認し実践する。

<行政>

活動の状況を把握し、支援をする。

○課題解決のための年間の取組

取り組み期間を短期的に設定する。「わが家のルール」は6月と2月に2週間実施する。その都度反省を行い、次の取り組みの目安とする。10月にはノーテレビ・ノーゲームデー強化週間を設定する。

教振として・学校として・児童会として、と様々な方向からアプローチする。成果の発表を11月の「みんなの集会」において行い、地域の方々にも評価をいただく。

### 3 取組の様子

「家庭学習の充実」

- ・「わが家のルール」を設定し取り組む。ノーテレビデー・ノーゲームデー強化週間を設定し取り組む。
- ・家庭学習の習慣化を見守り、学年による学習時間（低学年20分・中学年40分・高学年60分）達成をめざす。

「読書活動の推進」

- ・大人も、本や新聞を広げる時間を持ち、毎日読書する時間を共有する。
- ・子どもの読み聞かせに耳を傾ける。

「地域・家族の一員としての活動」

- ・地区の祭り・行事等に進んで参加する。
- ・家の中でも外でも、自分から先にあいさつをする。
- ・家族の中の役割分担としての仕事（手伝い）を担う。

「わが家のルール」として、学習・読書・テレビ・手伝い・あいさつ等について、強化週間・長期休業中等に実施し、反省に基づき次回の目標を設定している。取り組み期間後も、各家庭で意識できる事が理想である。期間中は、親子で取り組んでいる。

### 4 課題解決を判断する評価の方法

(1) アンケートを実施

7月38.3% ⇒ 11月43.7%

夕食前までには82.8%が学習している。

(2) 2年児童の貸し出し冊数平均が12.6冊になった。夏季休業中の親子読書の取り組み感想も、集中して楽しく読書できたであった。

(3) 地域の方や来校者等のあいさつに対する自己評価をもって、判断する。